令和7年度　主要事業評価シート

①基本事項

計画コード	22078	事業名	学校図書館支援事業	評価分類	A1
事業手法	☑ 直営　☐ 一部委託　☐ 全部委託　☐ 補助等　☐ その他（　）				

施策体系		予算科目	
施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	会計	01：一般会計
基本施策	01：子どもたちの豊かな学びと成長を支える環境の充実	款	10：教育費
施策の方向	03：希望をもって新しい時代に活躍できる子どもの育成	項	08：教育研究費
重点プロジェクト	04：「未来へのトビラ」プロジェクト	目	01：教育研究費
事業期間	H　21　年度　～　R　-　年度	主な根拠法令等	子どもの読書活動の推進による法律

担当部署	
部	教育委員会事務局
課	教育推進課 支援推進G

②事業概要（P）

事業の必要性（経緯・背景等）	事業の対象（誰に、何に対して）	事業の目的（どのような状態にしたいのか）	事業の内容（どのような取組を行うのか）
子どもたちの読書離れが年々進む中、学習指導要領において、学校図書館機能の充実と計画的な活用が求められており、児童生徒が自主的・自発的に本に親しむことができるよう、学校司書等と連携して読書活動を推進する必要がある。	市内幼稚園、小学校及び中学校の園児・児童・生徒・保護者	学校図書館活動の充実と蔵書の適切な更新により、児童生徒の読書習慣の確立と、読書の質の向上が図られる。また、家庭における読書習慣の定着が図られる。	学校図書館情報システムの運用と管理を行うとともに、学校司書の配置や学校図書館活用アドバイザーの派遣を行う。また、ファミリー読書リレー、読書チャレンジを実施する。

③事業の実施状況（P・D）

年度			令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
事業計画			○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リレー・読書チャレンジの実施		○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リレー・読書チャレンジの実施		○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リレー・読書チャレンジの実施		○学校図書館情報システム管理 ○学校司書の配置 ○学校図書館活用アドバイザーの派遣 ○読書リレー・読書チャレンジの実施	
活動実績 （計画通り実施できたか）			学校図書館情報システムを適切に運用した。学校司書6名を14校全ての小中学校に配置するとともに、図書館活用アドバイザーを配置し、各校に月1,2回程度、14校に計168日派遣した。読書リレーを幼稚園4園と小学校低学年を対象に、2学期に10週間程度実施したほか、読書チャレンジを市内全保育所・幼稚園（年長児）、全小学校（全学年）で実施した。		学校図書館情報システムを適切に運用した。学校司書を6名を全小中学校に配置するとともに、学校図書館活用アドバイザーを配置し、各校に月1，2回程度、14校に計168日派遣した。読書リレーを幼稚園4園と小学校低学年を対象に、2学期に10週間程度実施したほか、読書チャレンジを市内全保育所・幼稚園（年長児）、全小学校（全学年）で実施した。市立図書館との連携を進め、相互貸借事業「ほんくる。」も運用を開始した。		学校図書館情報システムを適切に運用した。学校司書6名を全小中学校に配置し、さらに学校図書館活用アドバイザーを各校に月1～2回程度、14校に計168日派遣した。読書リレーを幼稚園4園と小学校低学年で2学期に10週間程度実施し、読書チャレンジを市内全保育所・幼稚園（年長児）、全小学校（全学年）で実施した。市立図書館との連携を進め、相互貸借事業「ほんくる。」を継続し、「かめやま電子図書館」の運用を開始した。		学校図書館情報システムを適切に運用した。学校司書6名を全小中学校に配置するとともに、学校図書館活用アドバイザーを各校に月1～2回程度、14校に計76日派遣した。また、読書リレーを幼稚園4園と小学校低学年で2学期に10週間程度実施したほか、読書チャレンジを市内全保育所・幼稚園（年長児）、全小学校（全学年）で実施した。さらに、市立図書館との連携を進め、相互貸借事業「ほんくる。」を継続し、「かめやま電子図書館」の活用促進に取り組んだ。	
計画額	予算額	事業費	14,600千円	14,500千円	14,000千円	14,629千円	14,000千円	13,540千円	10,000千円	9,908千円
		国・県支出金		0千円		849千円				
		地方債		0千円						
		その他		0千円						
		一般財源	14,600千円	14,500千円	14,000千円	13,780千円	14,000千円	13,540千円	10,000千円	9,908千円
決算額		事業費		13,530千円		14,182千円		12,977千円		8,592千円
		国・県支出金		0千円		849千円		0千円		0千円
		地方債		0千円		0千円		0千円		0千円
		その他		0千円		0千円		0千円		0千円
		一般財源		13,530千円		13,333千円		12,977千円		8,592千円

①期間内計画額（R4-7）	52,600千円	②期間外計画額（R8-）	-	①＋②総計画額	52,600千円

（令和7年度予算額の内訳）

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	9,908千円
次年度への繰越額	0千円

④指標（C）

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学校図書館を活用した授業を、全学年が月1回以上実施した学校数		活動	校	計画値	14	14	14	14
				実績値	14	14	14	14
児童生徒読書数	児童生徒1か月の一人当たりの図書貸出冊数	成果	冊	計画値	8	9	10	11
				実績値	8	8	8	7
授業時間以外での読書状況	平日授業時間以外の読書時間「10分以上」と回答したの子どもの割合（全国学力学習状況調査　児童生徒質問紙）	成果	%	計画値	小学校 60中学校 46	小学校 61中学校 47	小学校 62中学校 48	小学校 63中学校 49
				実績値	小学校 65/中学校 42	小学校 50.6　中学校 41.8	小学校 70.4/中学校 52.4	小学校 66.3/中学校 56.6

⑤成果（C）

判定	事業実施により得られた成果（誰に（何に）対してどのような効果があったか
B まずまず成果を得た	学校司書の配置及び学校図書館活用アドバイザーの派遣により、教職員に対する読書指導の充実や図書館活用指導の推進が図られた。児童生徒の読書数の数値は減少したものの、読書指導を通して、児童生徒の読書習慣の確立と読書の質の向上につなげることができた。さらに、読書リレーや読書チャレンジのほか、図書の相互貸借、電子図書館の利用の取り組みを通じて、家庭での読書等授業時間以外の読書習慣の定着に結びついた。

（再掲）

事業の対象	事業の目的
市内幼稚園、小学校及び中学校の園児・児童・生徒・保護者	学校図書館活動の充実と蔵書の適切な更新により、児童生徒の読書習慣の確立と、読書の質の向上が図られる。また、家庭における読書習慣の定着が図られる。

⑥課題（C）

事業の達成状況等を踏まえた課題事項
貸出冊数等は全国平均（「学校図書館の現状に関する調査」調べ）を上回っているものの、児童生徒の読書数には学校差や個人差がある。そのため、各校の図書担当者が学校司書や学校図書館活用アドバイザーと連携し、児童生徒や家庭に多様な図書館活用方法や貸出方法を周知・啓発していく必要がある。

⑦事業の展開（A）

方向性	
継続（現状維持）	現状どおり事業を継続する

改善・見直し内容

令和8年度で対応する（した）もの	令和9年度以降で対応するもの
学校図書館活用アドバイザーの派遣を継続し、学校図書館を活用した読書指導や調べ方学習指導など、研修会の内容等を充実させる。また、各校の図書担当者会を定期的に開催し、図書館活用指導の推進を図る。さらに、読書の幅を広げるため、相互貸借や電子図書館の利用を促進する。	令和8年度の実施状況を踏まえ、児童生徒の読書習慣の確立や読書の質の向上に向け、必要に応じて改善・見直しを進める。

【履歴】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	B	B	B
事業展開	継続（現状維持）	継続（現状維持）	継続（現状維持）	継続（現状維持）

1次評価者	教育委員会事務局　教育推進課　支援推進GL　北川　恵美子
最終評価者	教育委員会事務局　教育推進課長　谷　伸